

第2回かごしま未来創造ビジョン見直し有識者委員会 議事概要

1 日時

令和3年11月10日(水) 午前9時30分から正午まで

2 場所

ホテル自治会館403号室

3 参加者

- | | | |
|---------|-----|------------------------|
| ・宮廻 甫允 | 委員長 | (鹿児島大学名誉教授) |
| ・川畑 孝則 | 委員 | (鹿児島商工会議所副会頭) |
| ・荒木 政臣 | 委員 | (県商工会青年部連合会会長) |
| ・中村 耕治 | 委員 | ((株)南日本放送取締役相談役) |
| ・中原 國男 | 委員 | (県観光誘致促進協議会顧問 等) |
| ・弓場 秋信 | 委員 | ((公財)鹿児島市国際交流財団理事 等) |
| ・立元 千帆 | 委員 | ((公社)県医師会理事) |
| ・古市 智子 | 委員 | ((社福)県社会福祉協議会地域福祉部長) |
| ・餅原 尚子 | 委員 | (鹿児島純心女子大学人間教育学部教授) |
| ・門田 晶子 | 委員 | (県女性活躍推進会議会長 等) |
| ・志賀 玲子 | 委員 | (志学館大学法学部教授) |
| ・西橋 瑞穂 | 委員 | (前甲南高校校長) |
| ・末吉 竹二郎 | 委員 | (国連環境計画金融イニシアティブ・特別顧問) |
| ・津曲 貞利 | 委員 | (日本ガス(株)代表取締役社長) |
| ・上國料 智紀 | 委員 | (県農業協同組合中央会常務理事) |
| ・柴立 鉄彦 | 委員 | ((一社)県林材協会連合会会長) |
| ・宮内 和一郎 | 委員 | (県漁業協同組合連合会代表理事専務) |
| ・田島 功輔 | 委員 | (県建設業青年部会会長) |
| ・地頭 蘭 隆 | 委員 | (鹿児島大学農学部教授) |
| ・飯山 千尋 | 委員 | ((一社)県銀行協会常務理事事務局長) |
| ・新崎 恭史 | 委員 | ((株)日本政策投資銀行南九州支店長) |
| ・下町 和三 | 委員 | (日本労働組合総連合会鹿児島県連合会会長) |

※ 別日(11/15)意見聴取(Web会議)

- ・田瀬 和夫 委員 (SDGパートナーズ(有)代表取締役CEO)

4 議事

- (1) 資料説明
事務局が資料説明を行った。
- (2) 意見要旨
別紙のとおり

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

なし

第2回かごしま未来創造ビジョン見直し有識者委員会 意見要旨

NO. 1

委員名	意見・提言等
宮廻甫允委員長 (鹿児島大学名誉教授)	<ul style="list-style-type: none"> 計画には様々なレベルがあるが、ビジョンは最上位のものであり、県の施策の方向性を示すものであることから、抽象的・総花的にならざるを得ない。 ビジョンは県民にとっても県職員にとっても重要なもの。県がどのような方向で将来を考えているのか、共通認識を持つことが重要。
川畑孝則委員 (鹿児島商工会議所副会頭)	<ul style="list-style-type: none"> 『観光の「稼ぐ力」の向上』について、コンベンションやMICEに関する記述がないため、方向性を示してほしい。 県外・国外から来てもらって経済を回していくという考え方も必要。 今の状況だけの判断で物事を見ていて、全体がシュリンクしてしまい、読んでいて楽しくない、ワクワクしない内容になっている。もっと未来を感じられるような内容に変えてほしい。
荒木政臣委員 (県商工会青年部連合会会長)	<ul style="list-style-type: none"> SDGs やカーボンニュートラルについては、教育分野の中にしっかり明記した方がよい。 本県は中小企業が非常に多く、地域を支えている。商工会などの中小企業をサポートする側の支援もしっかりと行ってほしい。 総合体育館やMICE, 国際的なホテル等の施設を発展させることと、自然を守っていくことが必要。 屋久島, 奄美大島, 徳之島に限らず様々な離島を含むように、観光と離島を結びつけた包括的な記載にしてほしい。 時代の変化のスピードに合わせ、常に見直しを行うというくらい、危機感を持って取り組むことが大事。
中村耕治委員 (株)南日本放送取締役相談役)	<ul style="list-style-type: none"> 本県が持つとても大事な力で、戦略的に全面的に押し出すキーワードである「環境文化」が抜けている。世界自然遺産だけの問題でなく、地域再生・地方創生も「環境文化」という目線で見ることが重要。 「環境文化」は、自然保護, 防災, 地域活性化, 観光, 移住・定住などにも繋がる。日本あるいは世界, 地球を貫くテーマでもあり、これを前面に打ち出し、環境文化先進県を目指す必要があるのでは。
中原國男委員 (県観光誘致促進協議会顧問)	<ul style="list-style-type: none"> 観光においてはまちづくりが大切。 鹿児島市内中央地区における大型バス駐車場の確保や古くなっている施設の移転が課題である。 鹿児島文化ゾーンの人流を考慮し、10年, 20年後を見据え、国道10号の一部を地下に入れ、天文館地区と文化ゾーンの人流をつくってほしい。

委員名	意見・提言等
弓場秋信委員 (公財)鹿児島市国際交流財団理事等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少対策では、企業立地が大切。 ・ 稼ぐ力の一番の基本は鹿児島ブランドの確立であり、鹿児島・KAGOSHIMA を国内外へ発信し、認知の深化を図ることが重要。 ・ 国際化が進む中で、鹿児島の「人」や「心」が、地球人的思考・行動をできるかが問われる。異なる文化や習慣、価値観の存在を認める「多文化共生」の実現を目指すことが重要。
立元千帆委員 (公社)県医師会理事)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症が世の中を大きく変えた。第2のコロナウイルスが発生する可能性を念頭に置いてビジョンをつくる必要があり、今回の経験を生かして行われた施策がさらにまた良い内容になるという方向にいけばよい。 ・ 当初(改訂前)のビジョンがどのような具体的な施策になったかという答え合わせができると、次を作るときの参考になるし、県民にも分かりやすい。今回のビジョンも10年後に答え合わせができるような形にしてほしい。
古市智子委員 (社福)県社会福祉協議会地域福祉部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年に世の中がどういう状況になっているか、福祉と介護の分野で考えてみても、今の子どもたちに非常な負担を強いる状況になるのではないかと危惧している。 ・ 「繋がり続けること」と「誰もが住み慣れた地域で」という点は、人間が生きていく上で一番根本のところ、福祉の原点であると思っており、それが、20年、30年後も本県の中にあり続けるようなビジョンになればよい。
餅原尚子委員 (鹿児島純心女子大学人間教育学部教授)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島の目指す姿の「暮らしやすい社会づくり」に「心豊かに」という言葉を入れてほしい。 ・ 「児童虐待防止対策の推進」に、一時保護所の在り方について加えてほしい。 ・ コロナ禍で子どもたちが命を絶つケースも増えてきているようであり、自ら命を絶つことのないよう、自分や相手、人を大事にする「心の涵養」のようなことをもう少し強調してほしい。 ・ 「安全で安心な学校づくり」に、ハード面だけではなく心も含め、「心身ともに安全で安心な」という文言が入ったらよいのでは。 ・ 「犯罪被害者等の支援」に、「表に現れてこない潜在的な被害者をはじめ」という文言を加えてみてはどうか。 ・ 「子どもが安全で安心して暮らせる地域社会づくり」に、子どもへの暴力撲滅についての表現を加えてみてはどうかなど、今の子どもたちの10年後を見据えて取り組むことが大切だと思う。

委員名	意見・提言等
門田晶子委員 (県女性活躍推進会議会長等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの延長線上のビジョンを描いていても取り残されてしまう。そういう危機感を感じる。 ・ 既得権者やしがらみとの戦いに対する覚悟を持ち、本県を素晴らしい県にして生き残っていこうという気概や、元には戻さないことにみんなでチャレンジしていくという気概が感じられるようなビジョンが欲しい。 ・ 世界自然遺産が2つもある鹿児島ならではの世界をリードするSDGsの取組、例えば大崎町の「サーキュラービレッジ構想」は国内外から視察に来るほどの可能性がありワクワクする。 ・ ジェンダー平等という言葉を入れたのはよい。
志賀玲子委員 (志学館大学法学部教授)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島はインターネット環境やその活用が全国でも低いレベルだと思う。苦手意識から、情報人材になりたい、学びたいという子どもが少なく、てこ入れが必要。 ・ 情報収集・分析力、企画・立案力、柔軟な発想力やコミュニケーション能力も必要。社会全体で、デジタル化やトランスフォーメーションができるような発想力を磨くという視点が重要。 ・ 情報モラルやセキュリティ強化等も入れてほしい。 ・ SDGsについての記載、「奄美・離島の振興」や「農林水産業の『稼ぐ力』の向上」の柱立て、観光におけるユニバーサルの視点などはよいと思った。 ・ 県民への見せ方について、ビジョンの概要版でのPRや危機感、そして希望も前面に出すような、わかりやすい工夫をしてほしい。 ・ 「歴史」のワードは具体にあるが、高次に入れられないか。
西橋瑞穂委員 (前甲南高校校長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちが未来を生きる子どもたちのためにこの10年でやらなければならないことは何なのかということをはっきり示せるようなインパクトのある何かがあったらよい。 ・ 県の施策として特に力を込めていくところがもっと明確になるように打ち出して、意気込みを見せるということも大事。 ・ 冊子が厚くなるので、もっとすっきりさせ、誰もが手に取りやすいものになればよい。 ・ 地球環境の現状をしっかりと理解し、自分ごととしてとらえて行動に移すことができ、グレートリセットを受け入れられる子どもたちを育てる必要がある。また、県民全体がそのような姿勢を持てるように県としてリードしていく必要がある。 ・ 環境教育の充実についてビジョンに明確に示してほしい。

委員名	意見・提言等
末吉竹二郎委員 (国連環境計画 金融イニシアテ ィブ・特別顧問)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような未来をつくっていくのか，そこに向けてどのようなビジョンを描いていくのか，そういった意気込みをもう少し前面に出した方がよい。 ・ 価値観の共有が必要。サマリーみたいなところで入れて，それに基づく個別施策はこちらを参照するといったようなものになると，より理解が深まるのではないか。 ・ 観光の在り方について，自然を大事に，CO2を出さない，それでいてより楽しめるという在り方に変えていこうとするアプローチが重要。 ・ ビジョン改訂の趣旨で，DX，SDGs，カーボンニュートラルが同列に置かれているという価値観がよいのか。DXは重要だが，今世界が言っているのは，GX(グリーン・トランスフォーメーション)であり，DXよりもはるかに根底的に重要なテーマである。 ・ 世界は根底から違う発想で経済や社会を見始めている。その原点の大きな転換があるということはどう受け入れてビジョンを作るのか，トランスフォーメーションをどのようにサポートして推進するのが重要。
津曲貞利委員 (日本ガス(株) 代表取締役社 長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年のカーボンニュートラル実現，2030年の日本の努力目標46%削減は難しい数字だと思っている。 ・ 再生可能エネルギーは，環境には良いが，生活環境や自然災害という面からみると必ずしも良くないという風潮も出てきており，闇雲に作り続けることには生活上の大きな問題があり，自然環境を破壊するという視点もあると思う。 ・ トランジションの時間軸を何でマネジメントするかという議論が必要。 ・ なかなか難しい問題だが，例えば原子力発電所についてどのように考えるかという問題も非常に重要であるし，化石燃料も少しずつ減少させ，上手く繋ぎ合わせていかないといけない。
上國料智紀委員 (県農業協同組 合中央会常務理 事)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年までのCO2ゼロエミッションに向けては，官と，調達・生産・加工流通・消費の4分野に関係するあらゆる団体との連携が必要であるため，県には旗振り役となって仕掛けをお願いしたい。 ・ 本県は農業生産額が全国2位であり，全国の中でも農林水産分野のCO2削減の責任を負っていると思う。 ・ ビジョンの周知については，小中高校の授業で活用したり，県の施設で将来の鹿児島をビジュアルとして見せたりして共有が図れるとよい。

委員名	意見・提言等
柴立鉄彦委員 (一社)県林材協会連合会会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林・林業業界の振興が中山間地域の過疎対策にも繋がる。 ・ 木材は、植える→育てる→使う→植えるというサイクルの中でCO2を取り込んで蓄積するため、森林・林業業界の振興は、地球温暖化対策にも繋がる。 ・ 本県の木材業界は大きなポテンシャルを有している。
宮内和一郎委員 (県漁業協同組合連合会代表理事専務)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「未来をつくるには」という基本の部分で価値観を共有することが大事。 ・ SDGsにも海の豊かさを守ることがあるが、多面的な機能を持つ「海業(うみぎょう)」などを上手く含め、価値観の共有というところを全面に打ち出していく必要があるのでは。
田島功輔委員 (県建設業青年部会会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人材は欠かせないものであり、他県や外国との取り合いになる中で、労働環境や生活環境において素晴らしいところだと魅力を分かってもらえる鹿児島を目指してほしい。 ・ 事業継続計画(BCP)の策定を推進してほしい。 ・ 施策の優先順位について、行政の考える優先順位と民間が考える優先順位のすり合わせをしてほしい。予算付けに関しても、早急に取り組まなければならない事項を明確にして、集中的に予算付けする必要がある。
地頭菌隆委員 (鹿児島大学農学部教授)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の災害も踏まえて充実した内容を記載してあるので、県の政策等を着実に進めてもらいたい。 ・ 本県にとってこれから非常に重要な問題になるのは、桜島の大噴火に備えた準備である。この対策は喫緊の課題であり、行政だけでなく、住民、民間、大学も含めて連携しながら進めていくべきである。
飯山千尋委員 (一社)県銀行協会常務理事事務局長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように目指す姿に近づくかということが重要であり、施策の基本方向をもとに、いかに具体的な方策を立てて実行していくかが重要。工程表も大事であり、施策の進捗管理を行う必要がある。 ・ 時代のニーズの変化や価値観の多様化の速度はますます速くなっているため、随時見直しが必要となるのでは。 ・ ビジョンを市町村、企業、県民に理解してもらうため、有効な広報活動が必要。

委員名	意見・提言等
新崎恭史委員 ((株)日本政策 投資銀行南九州 支店長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーボンニュートラルは金融業界においても重要なテーマだが、世界が掲げる高いゴールと現実制約の間をどう繋ぐかがポイント。イノベーションや非連続的な取組の必要性も含め、トランジション（移行期間）の考え方をビジョンの中に入れてもよいのでは。 ・ 挑戦や試行錯誤の精神が滲み出るビジョンにしてほしい。 ・ 鹿児島らしい生産性向上とは何なのか、鹿児島モデルを仕立てて全国に発信していけるような気構えがほしい。 ・ 複雑な課題が増える中、産官学金労言のプラットフォームの重要性を今一度考える機会があってもよい。
下町和三委員 (日本労働組合 総連合会鹿児島 県連合会会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食と農と環境という視点で鹿児島が行くのであれば、農産物や飼料の輸出入の際に排出するCO2の問題など、カーボンニュートラルの考え方を全体として貫いていかないといけない。 ・ 学生を含む若者の意見を聞いてほしい。 ・ 労働者教育、主権者教育を学校できちんとしてほしい。 ・ 「離島」という表現について、どこから見て「離島」なのかという話になる。表現の工夫ができないか。
田瀬和夫委員 (SDGパートナーズ(有)代表 取締役CEO) ※別途意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島らしさを盛り込むとともに、鹿児島と他地域や社会との繋がりを考慮する必要がある。例えば、環境やビジネスと人権においても、サプライチェーンを含めた取組が求められている。その中で、鹿児島「内」に閉じた問題意識に留まるのではなく、世界や外の社会との繋がりや構造の中での立ち位置を意識した上で、鹿児島の産業の観点をいれらるとよい。 ・ 観光地では、オーバーツーリズムや観光振興のための人づくりが課題となっている。人づくりが進まない地域にお金が落ちない可能性があり、また、観光を推進することで地域に住む人々の生活や観光資源が棄損される可能性もあるため、観光と地元の生活の接続を考慮しなければならない。また、プロモーションに偏った内容になっているため、もう一步戦略的に、地元をきちんと守るような観光施策になるとよい。安売りの悪循環が起きないように注視し、エコシステムを組み立て、クオリティが担保されたものを提供することが重要である。

田瀬和夫委員
(SDGパートナーズ(有)代表取締役CEO)

※別途意見聴取

- ・ デジタルについては、是非、デジタル・インクルージョンの視点を入れてほしい。また、企業や個人を引き込むためにもネット環境の整備は徹底的に行うべきである。
- ・ 産業の基盤強化については、企業のESG開示等、サステナビリティ基盤の強化と政策や施策等との相乗効果を考える必要がある。それが最終的にブランディングに繋がるとともに、ここが欠けていればSDGs未来都市的な思想に至ることはできない。
- ・ 15の柱の連関性、相乗効果をどう考えるかということも重要。
- ・ 外国人技能実習生の権利保障等の内容も盛り込んでほしい。